

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### 白いチョウはモンシロチョウ？

松本美千代(千葉市)

日 時：2011年4月17日(日) 10:30~12:00

参加者：22名(大人14名、子ども8名)

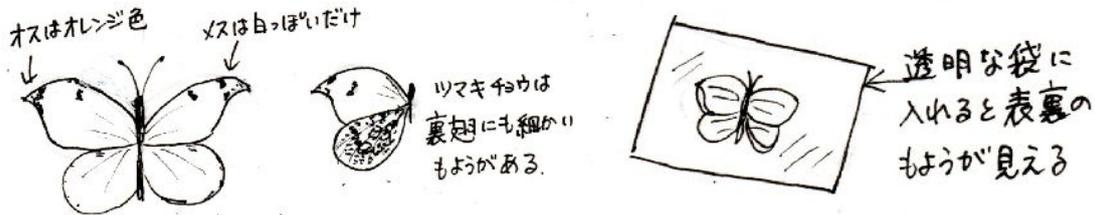
担当指導員：太田慶子・松本美千代

「白いチョウはモンシロチョウだと思っていましたが、そうでないことが解りました」  
観察会終了後、入口広場での参加者の感想のひとつ。「題」のベストアンサーをうけてかヤマザクラのみごとな花吹雪、しばし話を中断し皆で眺める。ここにも白いチョウがいたと、網を持って追いかけてしまいそう。それほど今日は春限定のツマキチョウがたくさん見られたのだ。

朝の下見時、大草を整備しているボランティアの方に出会う。田んぼに竹を投げ入れ遊んでいる子どもたちをみかけ注意したことを聞く。観察会に参加される方は、ここが貴重な場所であり、千葉市や地主さん、ボランティアの方々の協力で守られていること、観察路以外にむやみに入り込まない、生き物を持ち込まない、持ち出さないなど毎回聞き熟知されていると思うのだが。

地震後初めての観察会には、初参加の家族が2組いた。常連の男の子はお母さんに「話を聞かないと網を取り上げるよ」と言われ、参加者から借りた網をしっかりと持ち、説明を聞いていた。白いチョウは、①ツマキ(サナギ越冬・年1回3月~5月この時期しか見られない)、②モンシロ(サナギ・年4~5回)、③スジグロ(サナギ・年3~4回)、④モンキのメス(幼虫・年4~5回)、ウラギンシジミも白く見えるかもしれない。特徴を描いた絵を見て、別のところで採取したツマキとモンシロチョウの実物を見る。

絵：太田慶子



網と観察箱を持ち、谷津田に向かう。めじろんばを抜けると、シュレーゲルアオガエルの大合唱が聞こえた。キジの鳴き声、ホ…ケキョというウグイスも。すぐに湿地のところで白いチョウ見つけ、子ども達は追う。網に入れてから観察箱に移すのが難しく、一度は逃がしてしまう。網を上につまみあげると、虫は自然に上にいくからと説明を受け、今度は成功する。ツマキのメスを観察することができた。モンシロ、スジグロに比べると小さく、飛び方にも特徴があるが、飛んでいると遠目だと白く見えよくわからない。近くで見ると、色や模様、翅のかたちがよくわかり、オスとメスの比較が容易にわかった。地震後、田の水が抜け、ニホンアカガエルのおたまじゃくしがいた一部の田んぼが干上ってしまった。(4/3 確認) その田に水が戻っていた。近々シュレーゲルの白い泡状の卵塊が見られそうだ。自噴井近くでヒキガエルの黒い小さなたくさんのおたまじゃくし(3/30 ヒキガエルの合唱、4/3 紐状の卵塊確認)とそれよりずっと大きな褐色のアカガエルのおたまじゃくしも幾匹か見ることができた。水路に紐状の卵塊もあった。

元・現昆虫少年少女の活躍でベニシジミ・キチョウ・ナナホシテントウ・シモフリコメツキ・春一番に現れるまだ黄土色のシオヤトンボ・○ゾウムシ・アマガエル等が観察できた。白花たんぽぽ？と質問されるほどやさしい黄色のカントウタンポポ花、ハンノキ・コナラの芽吹きを見て、毛虫の様なイヌシデの雄花にぎよっとし、コガタルリハムシやベニシジミの幼虫はこんな味が好み？とスイバを味わって観察会を終える。